

1. N-バス利用実態調査結果の概要

1.1 調査実施概要

調査項目	調査日	回収率
利用実態調査 OD調査、バス停別乗降客数調査	平日:令和元年9月4日(水) 休日:令和元年9月7日(土)	平日:86.5% 休日:89.4%
利用者アンケート調査		21.3%
利用者ヒアリング調査 ・5箇所の主要バス停で実施	平日:令和元年9月4日(水)	51.5%

1.2 集計結果概要

(1) 利用者の利用目的と主要な行き先

- 利用目的は「公共施設」、「通院、福祉サービス」、「買い物」目的の多さが目立つ。(図1)
- N-バスで普段よく行く場所は、「アピタ」「市役所」「福祉の家・ござらっせ」「愛知医大」「イオンモール長久手」「藤が丘」が目立ち(図2)、全ての路線で「福祉の家・ござらっせ」が上位に位置している。



図1 利用目的の上位

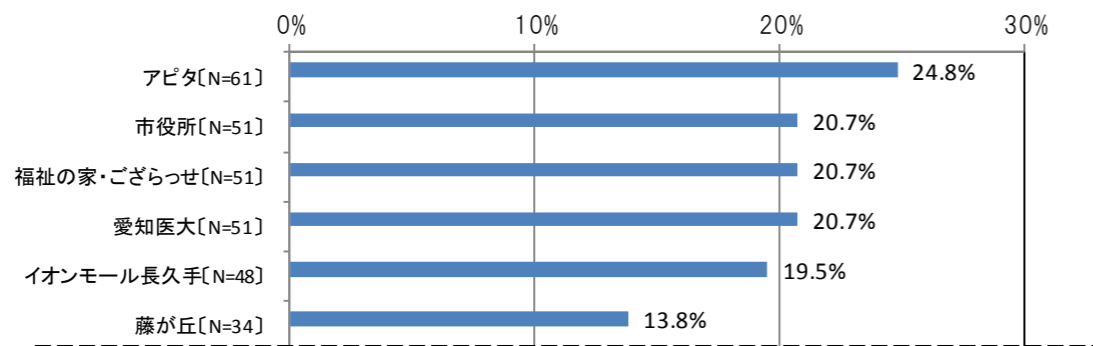
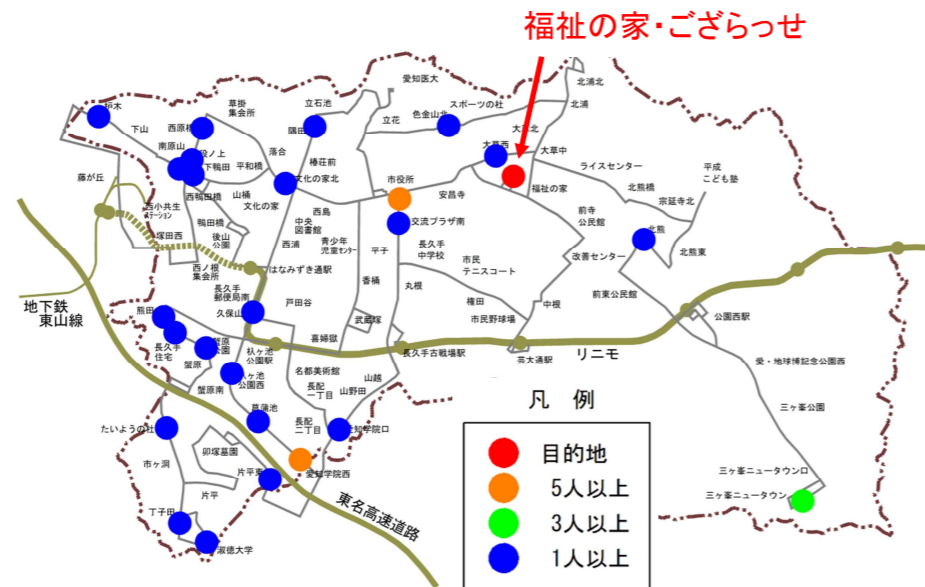


図2 普段、N-バスでよく行く場所(施設)の上位

- 福祉の家利用者は、主に西部からの利用が目立つ中、南部からの利用も目立つ。(図3)
- また、「アピタ」「イオンモール長久手」は市全域、「市役所」「愛知医大」は市の西部からの利用も目立つ。

図3 N-バスで普段よく行く場所の乗車バス停(福祉の家の場合)



(2) N-バスの利用者満足度

- 「④運行本数」「⑤運行ダイヤ」の満足度が低い傾向にあり、「⑫N-バス同士の乗り継ぎ」も不満の割合がやや高くなっている。(図4)

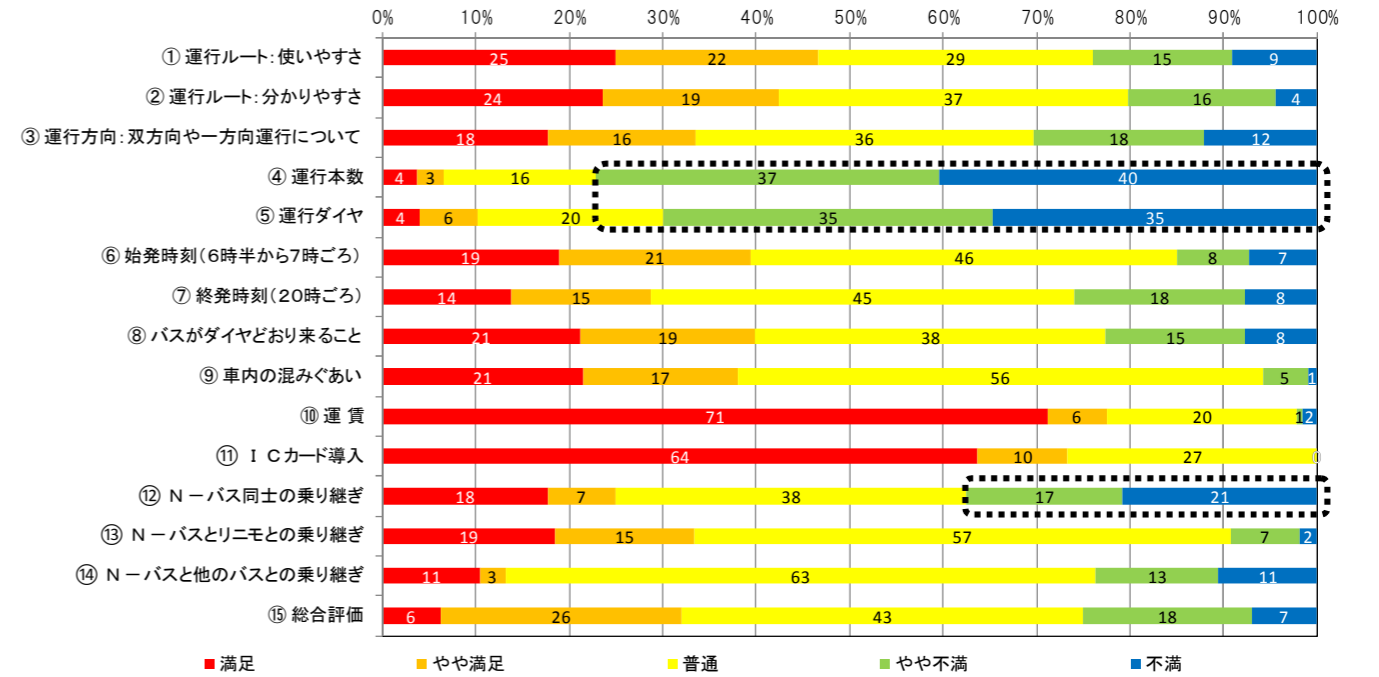
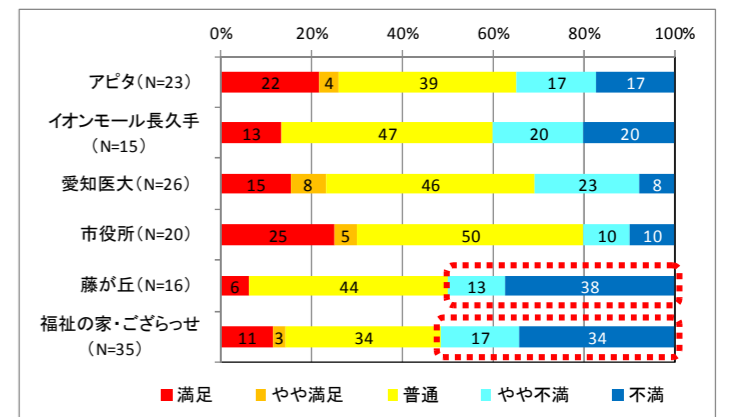


図4 満足度の回答割合

- 主な行き先別の不満度合いが高い項目のうち、「⑫N-バス同士の乗り継ぎ」面では、「藤が丘」「福祉の家・ござらっせ」に行く方の不満の割合がやや大きい。(図5)

図5 主な行き先別の「⑫N-バス同士の乗り継ぎ」の満足度の回答割合



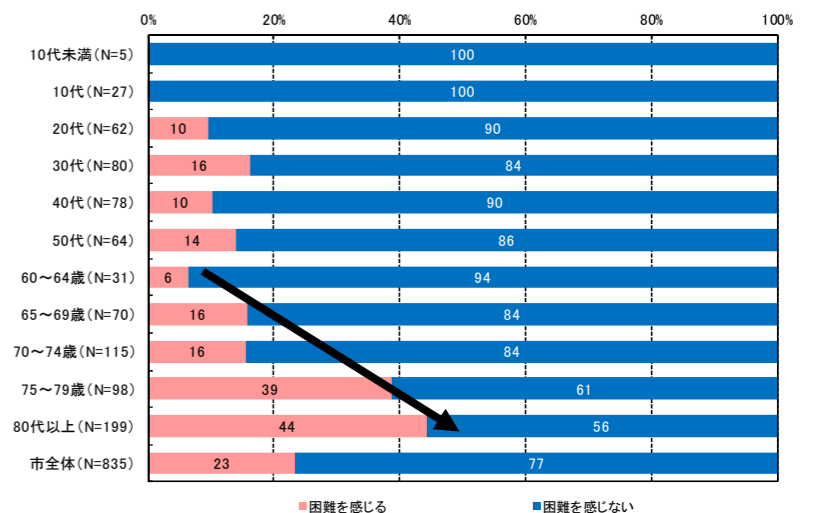
(3) 利用者特性

1) 徒歩移動の困難さ

① 年齢別の特徴

- 最寄りバス停まで徒歩移動が困難と感じている方の割合は約2割前後となっており、60歳以降は年齢が高くなるほど、その割合は高くなる。(図6)
- 路線別では、主に市の東部を運行する路線(北部線、東部線、三ヶ峯線、福祉の家線)で困難と感じている方の割合が高い傾向にある。

図6 年齢別の最寄りバス停までの徒歩移動の困難さの割合



2) バス停までの移動手段

- バス停までの移動手段は、徒歩利用が最も多くなっている。(図 7)
- 徒歩移動の所要時間は、徒歩移動に困難を感じている方ほど、移動時間が長い傾向にあり、徒歩移動に時間を要していることが伺える。(図 7)
- 路線別の特徴として、主に市の東部を運行する路線(北部線、東部線)で徒歩移動時間が長い傾向にあり、市の東部における高齢化率の高さも影響していると考えられる。(図 8)

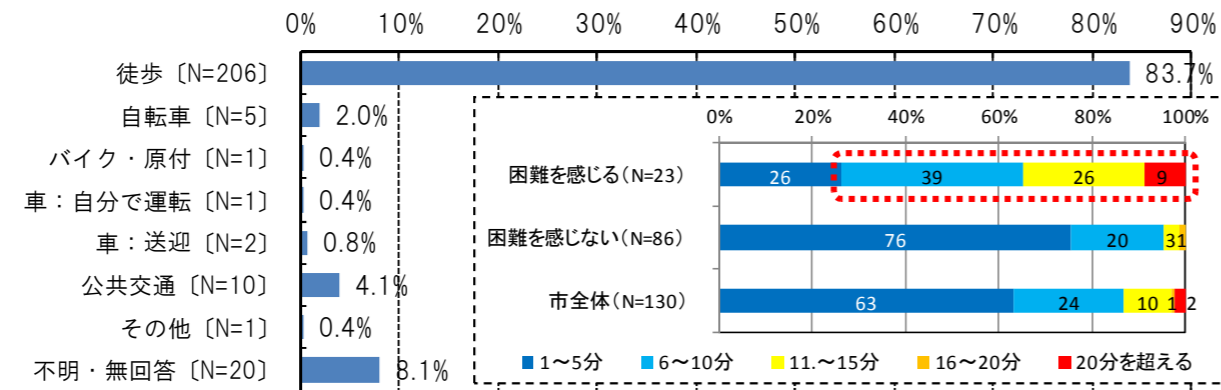


図 7 バス停までの移動手段と徒歩移動の所要時間

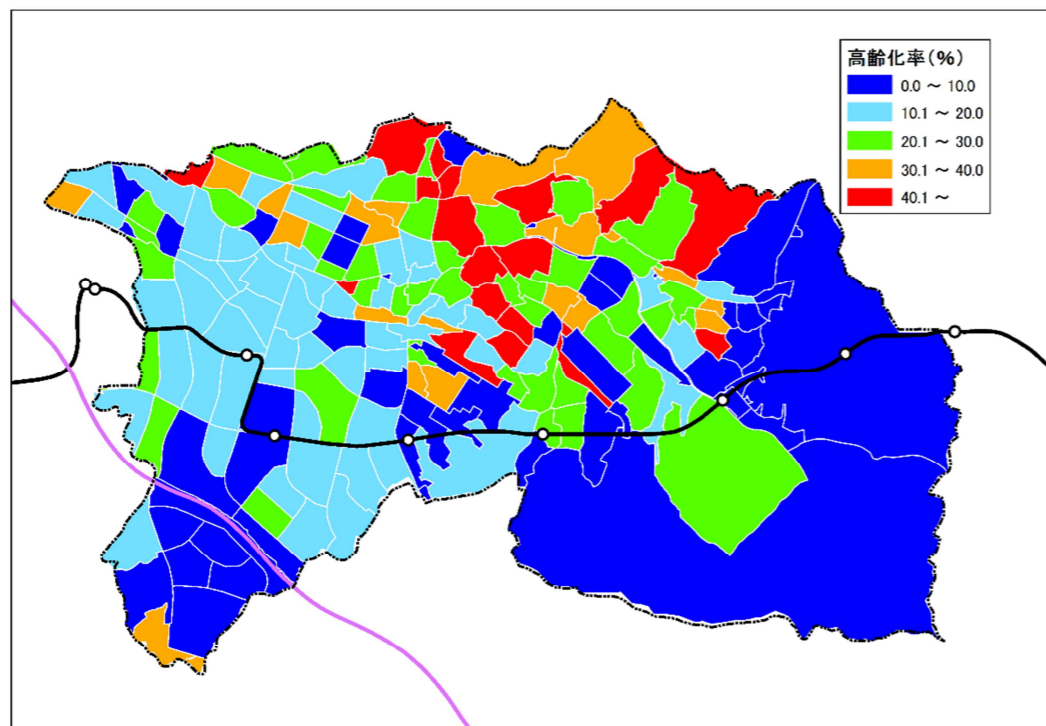


図 8 地区別高齢化率

資料：平成 27 年国勢調査

3) 利用頻度

- N-バス利用者全体では、週 1 回以上の利用頻度が 76% を占めている。(図 9)

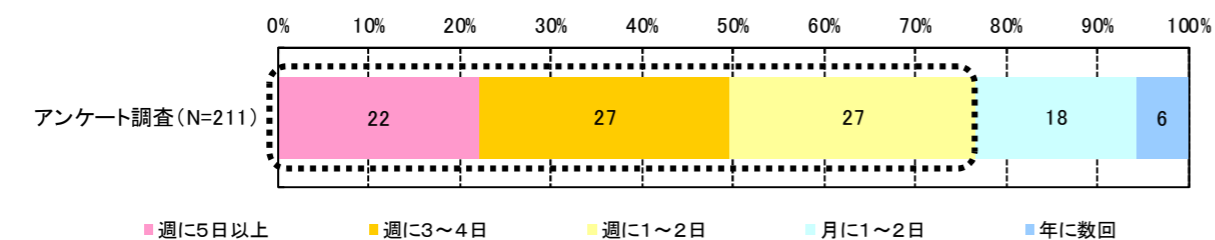


図 9 N-バス利用者全体の利用頻度の構成

- 年齢層が高くなるほど利用頻度が高い傾向にあり(図 10)、高齢者ほど自動車運転免許の保有割合が減少することが影響していると考えられる。(図 11)

- 最寄りバス停まで徒歩移動が困難と感じている方(図 12)や、自動車運転免許を返納した方(図 13)ほど利用頻度が高い傾向にあり、出控えの傾向はみられず、移動手段として活用されていることが伺える。

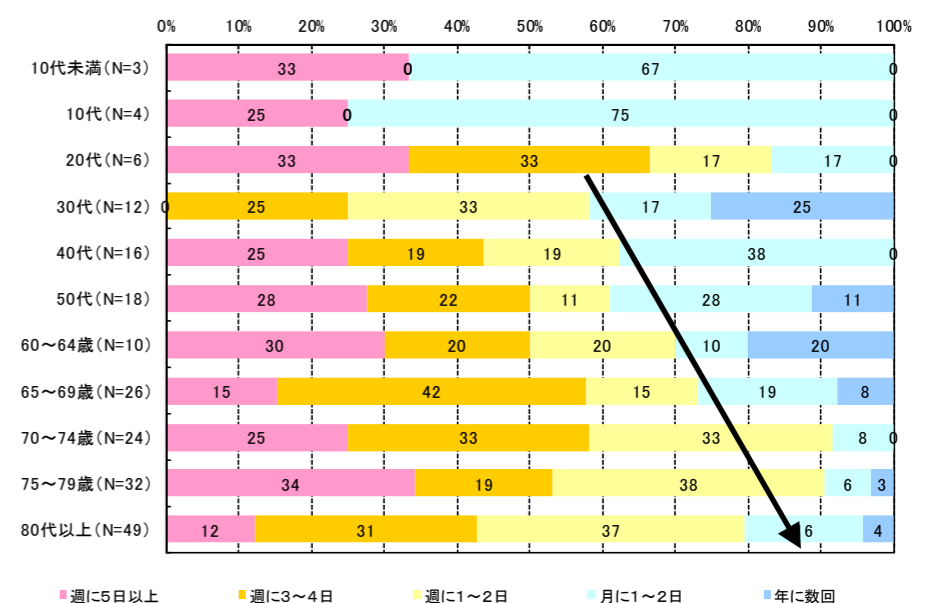


図 10 年齢層と利用頻度との関係

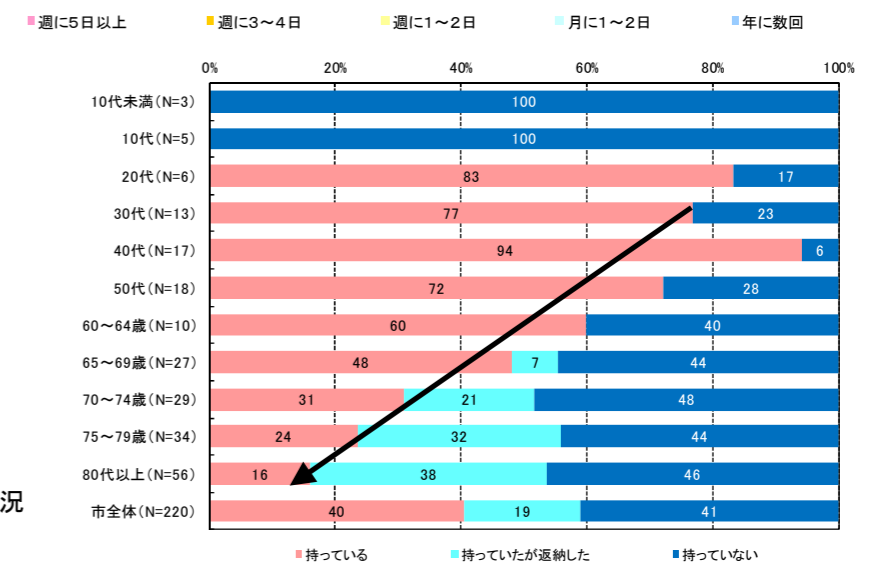


図 11 年齢別の自動車運転免許の保有状況

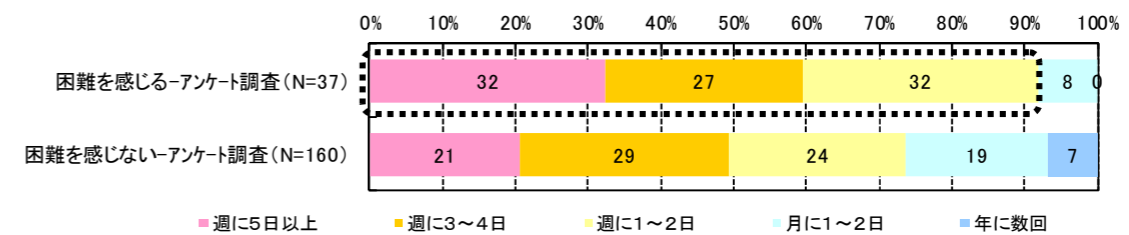


図 12 最寄りバス停まで徒歩移動の困難さの回答別の利用頻度の関係

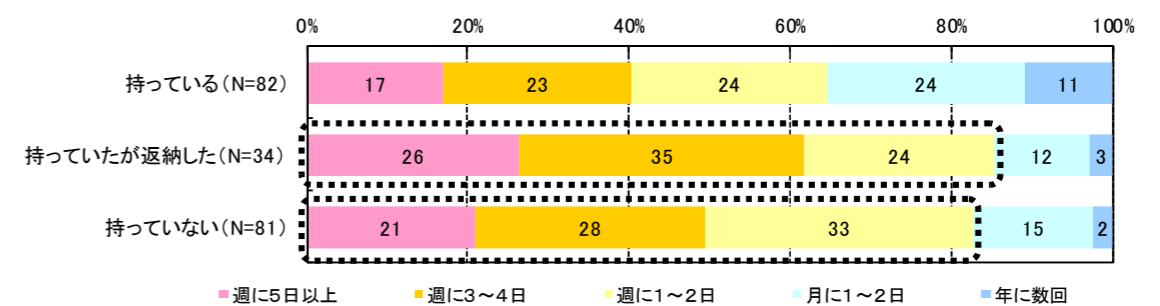


図 13 自動車運転免許保有状況と利用頻度との関係

(4) 往復利用の状況

- N-バス利用者の半数以上は往復とも利用されており、路線別では西部循環線、藤が丘線、一方向運行の北部線などでやや往復利用しない割合が多い傾向にある。(図 14)
- 往復利用しない方の多くは「本数が少ない」「利用したい時間帯と合わない」といった運行本数に起因する理由が多くなっている。(図 15)
- 往復利用しない時の「行き」または「帰り」の交通手段は、徒歩と名鉄バスが多く、自家用車による送迎も目立つ。(図 16)

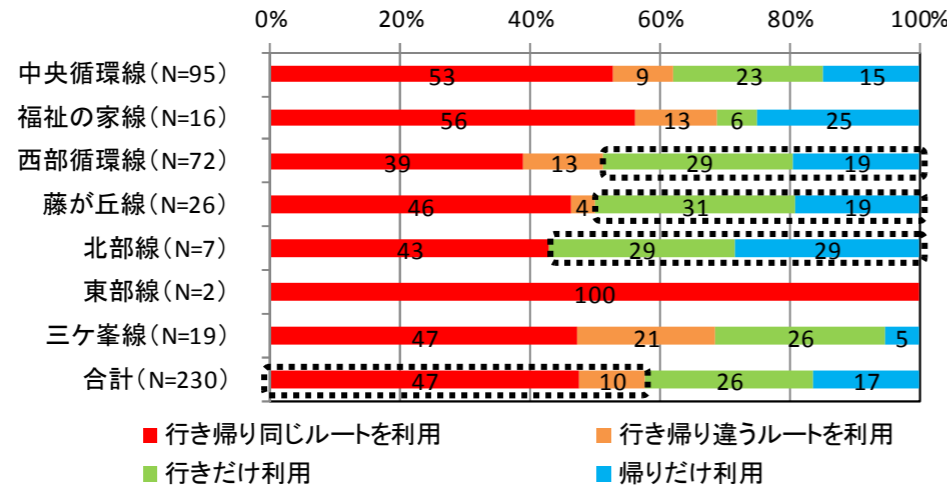


図 14 N-バス利用者の路線別の往復利用状況

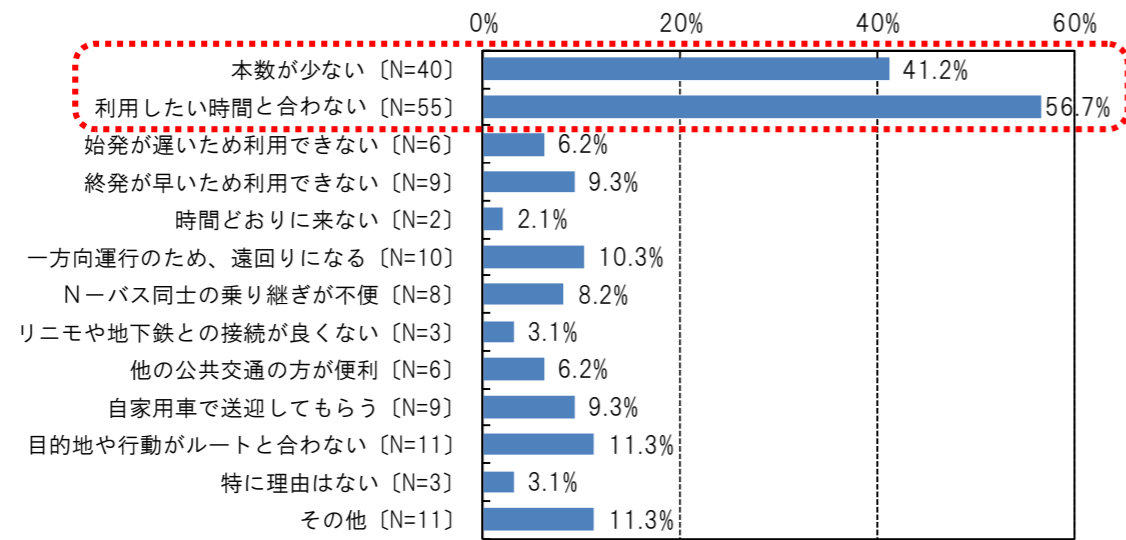


図 15 往復利用しない理由

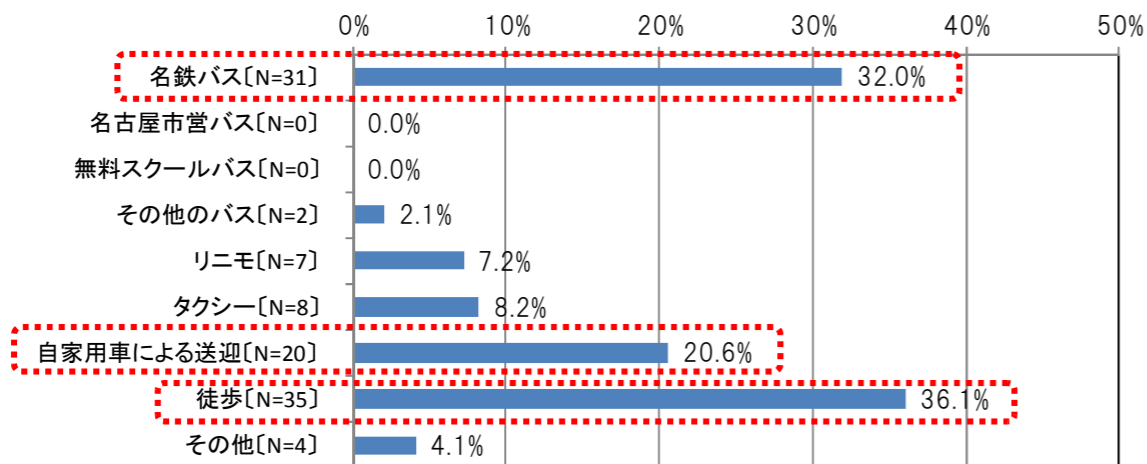


図 16 往復利用しなかった時の「行き」または「帰り」の交通手段

(5) N-タクが本格運行した際の利用意向

- 全体では「N-タクは利用しない」が62%を占め、次いで「N-タクとN-バスを使い分けて利用」が38%を占め、「N-バスの利用をやめてN-タクを利用」は2%と少ない。「N-タクとN-バスを使い分けて利用」の割合は、年齢層が高くなるほど多くなる傾向にあり、80歳以上では「N-タクとN-バスを使い分けて利用」の割合が、「N-タクは利用しない」の割合を上回る。(図 17)
- 一方、路線別では市の東部を運行する路線（福祉の家線、北部線、東部線、三ヶ峯線）で「N-タクとN-バスを使い分けて利用」の割合が高い傾向にある。(図 18)
- また、徒歩移動が困難と感じる方ほど、「N-タクとN-バスを使い分けて利用」の割合が多くなっており、必要性の高さが伺える。(図 19)

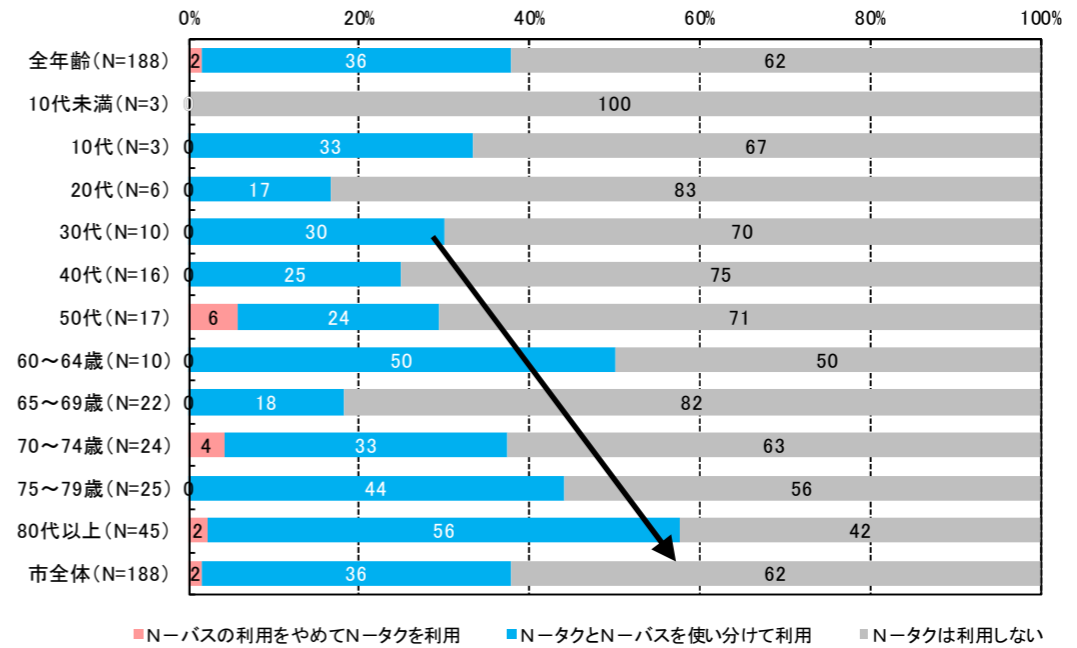


図 17 N-タクが本格運行した際の利用意向（年齢別）

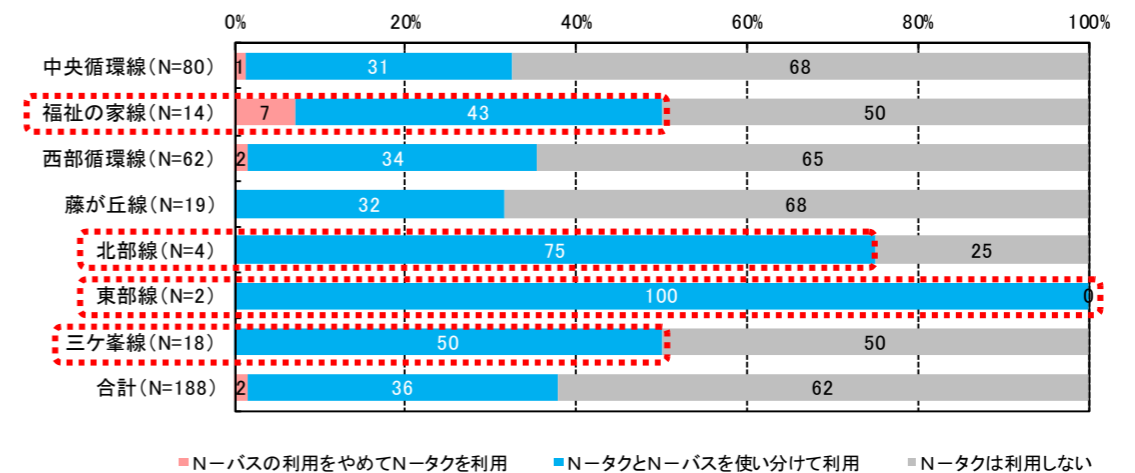


図 18 N-タクが本格運行した際の利用意向（路線別）

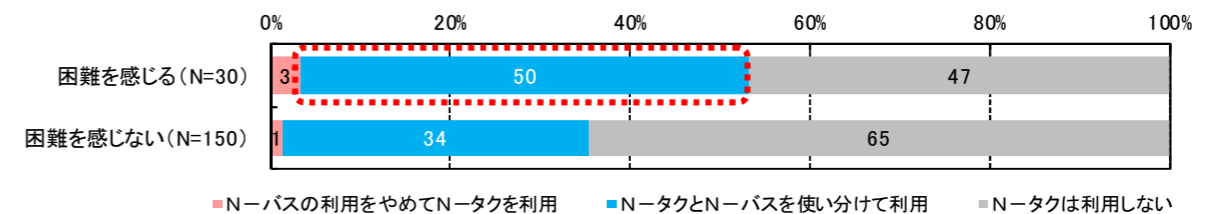


図 19 徒歩移動の困難さとN-タクの利用意向の関係